

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	地域の自然・文化資源の活用による観光情報提供ネットワークづくり事業
対象地域	鹿沼市全域
活動概要	<p>○鹿沼市は、全国的に有名な“鹿沼土”や“さつき”、高い品質と生産量を誇るイチゴ、ニラ、和牛等の農畜産物、国文化財指定の「ぶっつけ秋祭り」等のイベント、川上澄生美術館などの特色ある観光施設、清流や雄大な高原と湿原等、490.62km²の広い市域に多彩な資源が豊富であるが、知名度は低く、総合的効果的な観光PRの充実とイメージアップが大きな課題になっている。</p> <p>○市民がおもてなしとボランティアの心で自主的に設置する「まちの駅」が83か所(全国一)あり、来訪者に観光情報等を提供しているが、各「まちの駅」が常に旬の情報を得られているとは言えない。また、観光案内のボランティアグループは旧鹿沼市内のメンバーが主で会員が少なく、観光客等のニーズに応えきれない現状である。</p> <p>○18年に合併した旧粟野町を含む市の「西北部地域」は、清流、山、高原、神社仏閣、温泉などがあり、こんにゃくや大麻等特色ある農林業が営まれており、前日光県立自然公園に指定されている。</p> <p>この広大なエリアにあるハイキングコース等の管理を一部団体等に委託しているが、休憩施設や植物の状況等を把握しそれをメンテナンスしていくためには行政だけの対応では難しい。</p> <p>○鹿沼市の「中心市街地」は、日光西街道や例幣使街道の宿場町の歴史があり、奥の細道の道中芭蕉も宿泊している。ぶっつけ秋祭りに繰り出す彫刻屋台の展示施設や美術館、遊園地などの観光資源が点在する。市では、23年度オープンをめざして観光物産施設や大型駐車場などの機能をもつ「まちの駅“新・鹿沼宿”」を整備する。ここを拠点に市街地内を回遊する「まちなか歩き」を観光メニューの目玉一つにしたいと考えており、そのための各種コース設定、案内人の確保、案内人や各「まちの駅」への旬の情報提供の仕組みづくりが必要である。</p> <p><達成・実現したいこと></p> <p>○ふるさとを愛し、自然と文化を愛する市民(または市民のグループ＝新たな公)による旬の観光情報(生活文化や農林業等産業活動を含めた幅広い情報)の集積・提供のしくみづくり。</p> <p>○市民(または市民のグループ＝新たな公)による“楽しく回遊できる”コース、休憩施設、案内板の等の整備とそのメンテナンスのしくみづくり。</p> <p>○首都圏等で鹿沼の観光情報を拡げてくれる応援者(応援団＝新たな公)による「かぬまファン」づくり。</p> <p>⇒行政と市民、首都圏の応援団が一体となり、観光振興の視点から、資源の見直しとその保全・活用を「やれる人がやる」「やれなければ助け合う」しくみを目指す。この活動を通じて、新たな共助のネットワークづくりを目指す。</p>

<p>今年度の主な取組</p>	<p><全体として> ○市民(グループ)がそれぞれ関心が高い分野で役割を担いながら、自然・文化資源の発掘とその保全(メンテナンス)・活用を図り、特に観光情報として市内外に受発信するシステムをつくる。 <具体的な方法として> ①新たな共助のコミュニティの担い手となる鹿沼を好きな市民「市内かぬマニア=かぬま市民サポーター」と鹿沼を好きな首都圏住民「市外かぬマニア=かぬまファン」を鹿沼市内外および首都圏から公募。 ②前日光県立自然公園内の回遊ルート(自然探訪ルート)、メンテナンススポット、中心市街地内の回遊ルート(歴史探訪ルート)とおもてなしスポットの発掘・活用法を開発。また、メンテナンスやおもてなしの方法と必要な施設整備の検討、情報受発信やメンテナンスをボランティアで実践するための手法の検討・検証を行ワークショップ形式で実施。 ③②の結果を踏まえ、「おすすめ回遊ルート&メンテナンスマップ」を作成し、Web等で関係者自らが更新・公開、共有できるシステムの構築、「かぬマニア研修会」等の開催。 ④ルートやスポットの検証を、担い手の交流促進イベント等として実施。さらに、既存団体の活動支援と新たな人材の継続確保に努め、ネットワークを拡大していくためのしくみ(組織)づくり。</p>
<p>活動結果</p>	<p>鹿沼市は優れた観光資源(自然、文化、イベントなど)を多く有しているにもかかわらず、市民がそのことにあまり関心を持たず、その素晴らしさに気が付いていないという傾向にある。今回のモデル事業により、市外の「かぬマニア(鹿沼ファン)」となって初めて鹿沼を訪れた人たちから、鹿沼の観光資源を評価され、モデル事業に関わった市民は誇りを持つことができた。今後は市民の「かぬマニア(情報発信ボランティア)」やまちの駅関係者などは積極的に対外的PRが出来るようになることが期待できる。 また、市外の「かぬマニア(鹿沼ファン)」112名が生まれ、彼らへの市民と行政との協働による情報提供システム(市外と市外のかぬマニアをつなぐネットワーク)が構築できたことが最大の成果と思われる。多くの市外のかぬマニア(鹿沼ファン)が鹿沼の魅力を発見する機会を継続的に創出することができ、口コミやリピーターによる堅実な観光振興が期待される。</p>
<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>3回行った交流イベントモデル事業参加者から、予想以上に鹿沼の魅力やおもてなしを高く評価してもらったことで、市民にとって誇りと自信を高めることが出来た。情報提供システムを分かりやすい方法で構築することができ、しかも次年度以降鹿沼市や鹿沼市観光物産協会のシステムと共有する形で継続できることは大変素晴らしい成果。「まちの駅」スタッフ、鹿沼市と鹿沼市観光物産協会の職員、さらに、多くの知識と経験を持つNPO法人地域交流センターと連携して作成を進めたことにより、これらの成果を挙げることができた。交流イベントモデル事業で協働した「NPOおくのほそ道ネットワーク」は、今後毎年、鹿沼のおくのほそ道を訪れるイベントを継続する動きがある。ネットワークのリーダーが市外のかぬマニア(鹿沼ファン)になってくれたことによる成果である。今回、市民のかぬマニア(情報発信ボランティア)から提供された情報の中に、高村光雲の「老猿」の素材の「柘の木」が鹿沼のものであるということが交流事業などで話題になり、鹿沼市の新たな文化的資源として表舞台に出る可能性が出てきた。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">○交流イベントの様子</p>
<p>応募団体名</p>	<p>まちの駅ネットワークかぬま/鹿沼市</p>
<p>リンク</p>	<p>http://www.city.kanuma.tochigi.jp/</p>
<p>部局/担当者名</p>	<p>鹿沼市経済部商工観光課福田義一 / まちの駅ネットワークかぬま事務局 田村暁義</p>
<p>連絡先</p>	<p>0289-63-2180(福田) / 0289-60-2507(田村)</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>栃木県鹿沼市</p>